



株式会社

良品計画 第30期中間報告書 2008.3.1-2008.8.31

無印良品の“これから”を発信

当社では、新たな成長を目指し、国内・海外ともに新たなマーケットへの出店を積極的に進めています。今年度上期においては、米国・ニューヨーク等での出店の他、オリンピック開催で活気にあふれる中国・北京への初出店を果たしました。

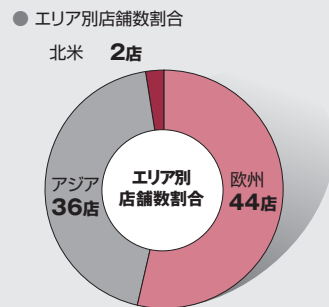
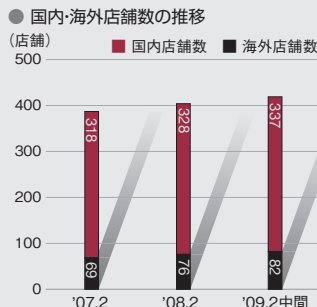
また、無印良品の「これから」を発信する都市型旗艦店「MUJI」、既存の品揃えを再編集した新型店舗「MUJI to GO」を出店するなど、新たな試みにも挑戦しています。

新宿エリアにおける都市型旗艦店「MUJI 新宿」がオープン

7月26日、都心最大級のシネマコンプレックスである「新宿ピカデリー」内に、無印良品の未来価値を創造する都市型旗艦店「MUJI 新宿」がオープンしました。新宿という情報発信力の高いエリアにおいて、無印良品の「これから」を発信する「MUJI」と、無印良品の「今」を凝縮した既存の「無印良品」とのシナジー効果を図っていきます。

併設する飲食業態「Café & Meal MUJI」では、既存店舗に比べ、ディナーメニューとワインを拡充する他、初の試みとして、ご注文を承ってから調理するHOTデリをご提供しています。また、無印良品の世界をより実感していただくため、無印良品の家具を使った空間でReal Furnitureを中心とした、商談やお食事を楽しめる多目的スペースを設けています。

今後も、お客様の様々なご要望にお応えするため、このような都市型旗艦店舗「MUJI」を3年で5店舗程度出店していきたいと考えています。



● ベストセラー商品「脚付マットレス」が、さらにお求めやすく!

無印良品の脚付マットレスはマットレスに脚をつけたシンプルなデザイン性に加えて、ソファとしてご利用いただける高い汎用性がお客様に受け入れられ、1991年の発売以来、累計100万台以上を販売しています。無印良品のアイコン的な商品として、これまでも改良を重ねてきましたが、この度、大きく見直し、よりお求めやすくなりました。

(例) シングルサイズ・脚ナチュラルタイプ床下20cmタイプの場合 20,000円→15,000円(税込)

ニューヨークに米国旗艦店 「MUJI Times Square」がオープン

昨年11月にオープンし、順調に売上を伸ばしている米国1号店「MUJI SOHO」に続き、5月30日、ニューヨーク市タイムズスクエア地区に、米国での旗艦店舗となる「MUJI Times Square」がオープンしました。タイムズスクエア地区は国内外からの旅行者、通勤客等、年間2億人が訪れる人気エリアです。また、「MUJI Times Square」が出版するNew York Times新社屋はイタリアの建築家レンゾ・ピアノ氏が設計した52階建て高層ビルで、ニューヨークの新たなランドマークとして注目されており、その1階に店舗を構える無印良品にも多くのお客様にご来店いただいています。米国においても、より一層無印良品をご愛顧いただけますよう、今後も、都市部を中心に積極的に店舗展開を進めていきます。



香港国際空港に品揃えを再編集した 新業態「MUJI to GO」がオープン

3月15日、香港国際空港第1ターミナルに、「MUJI to GO Hong Kong International Airport」がオープンしました。

「MUJI to GO」は、「トラベル&モバイル」をメインテーマに、無印良品の中から、旅・移動に便利な雑貨や文具、食品を中心に品揃えを再編集した新業態の店舗です。出店先である香港国際空港は、日々たくさんの人で賑わう、世界有数の国際空港です。「MUJI to GO」では、香港の方々はもちろん、海外からの観光客、ビジネスマンなど、空港を訪れる方々にとって利便性のある店舗を目指しています。今回の出店の反応をふまえ、今後は交通量の多い交通機関拠点を出店先として検討し、新しいマーケットへの進出を進めていきます。



● 小冊子「無印良品の理由」を発売

～「なるほど!」と共感、納得できるモノづくりの視点を紹介～

無印良品のすべての製品には理由があります。暮らしの中の小さな発見や、言葉にならない感覚の声に耳を澄ませてつくった数々の商品が生まれた理由を整理しました。暮らしがあるから、無印良品がある。すべての商品に共通するモノづくりの考え方を、あらためてこの小冊子を通じてお伝えします。(Vol.1～3まで発売中 税込各300円)



無印良品の理由 vol.3

トップメッセージ

世界の人々の共感を集め、
世界レベルの高収益企業を目指してまいります。

ごあいさつ

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。ここに当社第30期中間期(2008年3月1日～2008年8月31日)の報告書をお届けするにあたり、ごあいさつ申し上げます。

当中間期におきましては、6期連続の増収、7期連続の増益(営業・経常利益)を達成いたしました。また、当中間期の配当金は55円とし、前中間期に比べ8円の増配とさせていただきます。

この上期は、新経営体制のスタート期として企業価値の向上、永続的な成長に向けて新たな1歩を踏み出した期であります。

当中間期の売上高は832億52百万円(前年同期比2.6%増)、経常利益は96億17百万円(同6.1%増)、中間(当期)純利益は54億48百万円(1.5%減)となりました。

生活防衛意識の高まる今日こそ、無印良品のモノの本質を見極めて、ムダを削ぎ落とすコンセプトに、生活者の共感をいただけるチャンスと捉えております。「商品」「店舗環境」「情報発信」それぞれが一体となって、無印良品のコンセプトをより強くメッセージとして発信し、世界規模での業績の向上に努めてまいります。

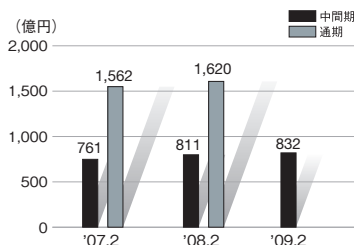
株主の皆様におかれましては、今後とも格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



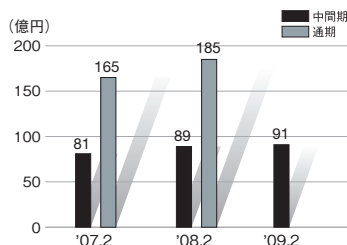
代表取締役社長

金井 政明

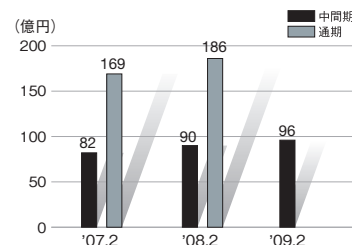
連結売上高



連結営業利益



連結経常利益



2008年度の経営テーマ

商品開発力の革新

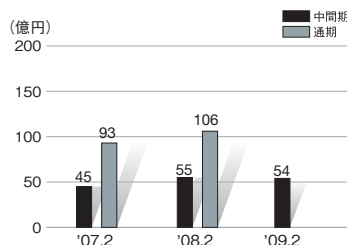
無印良品では、常に生活者の視点でモノづくりを進めることを心掛けております。一方でマーケットは常に進化し続け、競争も激化しております。その中で、私達は常に、モノづくりの視点と仕組みの進化に取り組んでまいります。今期の代表的な取り組みといたしまして、

- ①「なるほど! 無印良品」をキャッチフレーズに、無印良品の全商品が「なるほど!」と共感を覚えていただく商品になるよう、無印良品の商品のわけを伝えるキャンペーンを続けてまいりました。
- ②お客様の声をより早く正確に把握し、お客様の声を改善活動や、モノづくりに活かすため、顧客システムを一新し、よりスピーディーにお客様のご意見を一括管理できるようにいたしました。

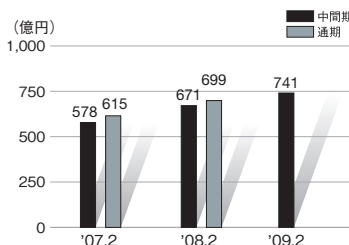
販売オペレーションの改革

生産性の高い店舗運営を行ううえで、店舗業務の中で比重の大きい「発注業務」に関して、従来の自動発注システムの一新を行い、店舗発注比率を40%から10%以下に低下させることができました。そこで空いた時間を、売場づくりなどの創造的な業務に活用することができ、売場での情報発信力がついてまいりました。その結果、新しい売れ筋アイテムが生み出されてきております。

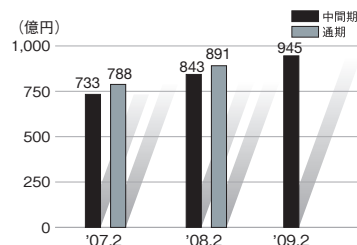
連結中間(当期)純利益



連結純資産



連結総資産



海外ビジネスの拡大

2008年度上期は海外で10店舗の出店、4店舗の閉鎖を行った結果、上期末で15ヶ国・地域に82店舗となりました。特に、今後の海外成長戦略を担う、中国および米国について、それぞれ旗艦となる大型店を出店することができました。今後、両国での情報発信の大きな原動力になります。

また、3月には世界初となる新業態「MUJI to GO」を、香港国際空港に出店いたしました。無印良品の小型編集店舗として、国内外問わず、新たな出店マーケット開拓を加速させたいと考えております。

出店だけではなく、商品もグローバル対応の強化に向けて、今期は商品開発組織を日本に集約いたしました。法規制、サイズ・ラベル表記等の情報を一元化することで、精度と効率を高めてまいります。

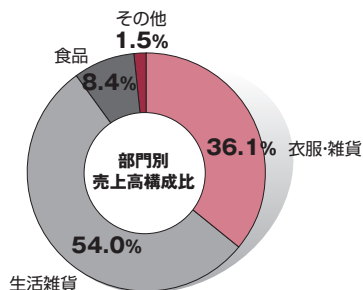
自由闊達な企業風土づくりと業務標準化

「業務標準化委員会」を核として、自由闊達な活気のある企業風土醸成に努めてまいりました。

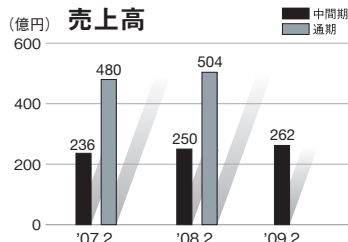
- ・役員率先による“さん”づけの励行
 - ・定時帰社徹底(本社18:30残留率10%以下達成)
 - ・書類の共有化・データ保管(本社内キャビネット半減)
- など、組織的に全社一丸となって、決めたことを一つ一つやりきる企業風土が浸透してまいりました。

商品別営業活動の報告

モノづくりと売場環境と情報発信が一体となった
「なるほど! 無印良品」のキャンペーンが成果を見せてまいりました。



衣服・雑貨



共通素材を活用した商品開発が成功

新しい取り組みとして、紳士ウェア、婦人ウェア、インナーウェア、子供服を中心とした各カテゴリーにおいて、共通の素材を活用した商品開発に取り組んでおります。上期は、生産者や地球にも配慮したオーガニックコットン、数ある産地の中でも上質とされている北フランス産のリネンなどを使用した商材を紳士、婦人、子供、インナーなどのカテゴリーにて全面的に展開し、ご好評をいただきました。また、糸をつくる過程で取り除かれてしまう「落ちわた」の個性を活かした商品は、着慣れた風合いが好評で、前期に引き続き好調に推移しました。

毎日着られるベーシックな服が、いつでも手頃な価格で見つかることも無印良品らしさのひとつとらえています。品質には妥協せずにお求めやすい価格を実現した「ずっと良い値」の商品では、ピマ綿やムラ糸といった素材を使用したシリーズ等が、好調に推移しました。この「ずっと良い値」として展開している商品も紳士・婦人・子供のシャツを同じ素材で展開しました。

これらの結果、衣服・雑貨の売上高は262億57百万円、前年同期比104.9%となりました。

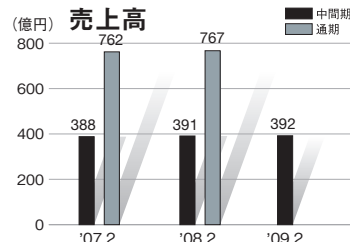
PICK UP商品 ▶ 汗を考えたインナー (①ワキ立体パターン吸汗速乾シャツ・2枚組、②強燃フライスワキ二重キャミソール)



①汗をしっかり吸収する吸汗性や速乾性に優れた独自の素材を開発し、ワキ部分を立体的な構造にしました。動きやすさにも配慮しています。

②暑い季節、女性が特に気になるワキの汗を考えた、汗取りパッド付きのインナーです。汗ジミの目立ちやすい前ワキはしっかりとカバー。後ワキに向かいワキを包むような設計で、汗を即座に吸収します。

生活雑貨



商品・販売・宣伝が一体となった重点商品の訴求が成功

当社最大の商戦である3月、4月の新生活プロモーションでは、打ち出しを強化したベッド、布団、家電が好調に推移しました。また、一昨年、昨年と年を追うごとに改良を重ねた「アクリル冷水筒」をはじめ、「扇風機」、新規の「アロマディフューザー」などは、商品・販売・宣伝が一体となって単品売り込みを実施し、大きな成果があらわれました。あわせて「なるほど!」という視点で商品のワケを訴求した商品もお客様に伝わり、ご好評いただいています。

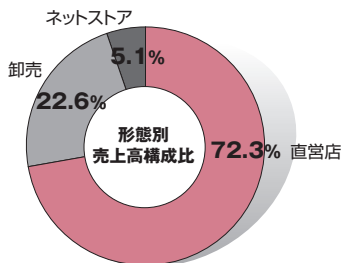
6つのカテゴリーのうち、エッセンシャルオイルを霧(ミスト)状にして部屋に拡散させる「アロマディフューザー」が大ヒットしたヘルス&ビューティ、ハウスキーピング商材やテーブル用品を含むハウスウェアが順調に推移いたしました。一方、継続してファニチャー、ファブリックスといった主力のカテゴリーが課題を抱えております。

これらの結果、生活雑貨の売上高は392億65百万円、前年同期比100.3%となりました。

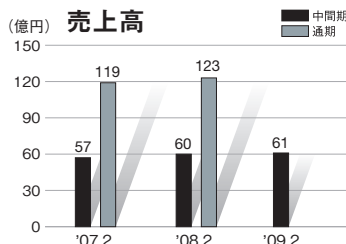
PICK UP商品 ▶ アロマディフューザー



エッセンシャルオイルを超音波による振動で微粒子状態にして、その粒子を霧(ミスト)のようにお部屋に拡散させます。熱によってオイルの香りを気化させるアロマウオーマーやアロマキャンドルに比べ、エッセンシャルオイル本来の香りをより強く持続的に楽しめます。お求めやすい価格やインテリアとしても部屋になじむデザイン。そして手軽な操作で香りを楽しめる機能で大ヒット商品となりました。穏やかな安らぎの時間をお楽しみいただけます。



食品



半生菓子やビバレッジが好調に推移

食品部門では、上期を通して調味・加工のカテゴリーが好調に推移しました。「蟹とトマトクリーム」などの新規パスタ関連商材、「手づくりキットタイカレー」「フライパンでつくるナン」や、「タンドリーチキンの素」などのカレー関連商材がご好評いただき、調味・加工カテゴリーの伸びに寄与しました。また、新しい試みとして他社のレシピサイトとの共同企画で行った、「手づくりキットタイカレー」を使ったアレンジレシピコンテストなども行いました。期間中、265件もの工夫を凝らした素敵なレシピが集まり、無印良品を使った料理レシピを広く紹介しました。

一方、売上の主力カテゴリーである菓子では、生産工程の無駄を省いた「無選別しょうゆあげせん」などの商品や、摂取カロリーをコントロールできる100kcal(キロカロリー)のお菓子シリーズといった開発コンセプトがわかりやすい商材が好調に推移したものの、原材料の高騰に伴う様々な影響があり、厳しい結果となりました。また、飲料も「マンゴーと蒟蒻のドリンク」のヒットやフェアトレードの紅茶、麦茶などの水出し茶葉類が好調だった反面、天候不順の影響や、無糖茶を中心とするペットボトルの飲料が振るいませんでした。

これらの結果、食品の売上高は61億10百万円、前年同期比101.8%となりました。

PICK UP商品 ▶ 殻まで使ったたまごパイ

卵料理はたくさんありますが、普段の生活の中で殻まで使って調理することはあまりありません。けれども、殻や薄皮も粉末状に加工すれば、カルシウム豊富な原材料に早変わりするのです。「卵は殻も含めて卵」そんな思いからたまごパイには卵のすべてを活かしました。



環境への取り組み

フェアトレード展の開催

2006年10月のレギュラーコーヒーの取り扱いを始めて以来、徐々に品揃えを充実させてきたフェアトレード商品は、飲料・ビバレッジにて10品目以上を品揃えしています。5月の国際フェアトレード月間に合わせ、NPO法人フェアトレード・ラベル・ジャパンと協力し、5月23日(金)～6月3日(火)に無印良品有楽町の展示スペースATELIER MUJIにて「フェアトレード展」を開催しました。会場では、フェアトレードの仕組みをわかりやすく説明したボードをはじめ、日本とフェアトレード先進国であるスイスおよび無印良品の店舗が所在する欧米8カ国(英国、米国、フランス、ドイツ、イタリア、スペイン、スウェーデン、ノルウェー)のフェアトレード製品購入額を比較したデータなどのパネルを展示しました。期間中に新製品「フェアトレード紅茶葉使用 ダージリン紅茶 無糖」の試飲会を行い、フェアトレード商品のおいしさをお客様に体験していただきました。



現場発の社会貢献

インナーウェア担当者より自発的な社会貢献として、昨上期に行った、乳がんの早期発見・診断・治療の重要性を促す「ピンクリボン運動」への活動支援を今年も継続して行いました。昨年に引き続き、お客様参加型支援とするために、2008年3月1日～8月31日の期間中にカップ入りキャミソールおよびブラジャーの対象商品の売上枚数1点につき1円を、日本対がん協会の乳がん征圧のための活動基金「ほほえみ基金」に寄付しました。対象商品は昨年より12アイテム増加の31アイテムを展開し、売上結果は昨年より約10万枚を上回る425,432枚となり、総額425,432円を日本対がん協会「ほほえみ基金」に寄付しました。



また、社内活動として、毎月行われる全国200店舗以上の店長を対象とした店長会議では、今年4月、対がん協会様より乳がん模型をお借りし、インナーウェア担当者より乳がんの早期発見を促すためのレクチャーを行いました。

連結財務諸表

● 連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	当中間期 (2008年8月31日現在)	前中間期 (2007年8月31日現在)
資産の部		
流動資産	49,094	48,235
固定資産	45,469	36,065
有形固定資産	12,873	11,840
無形固定資産	4,026	4,567
投資その他の資産	28,569	19,657
資産合計	94,563	84,301
負債の部		
流動負債	20,033	16,723
固定負債	369	390
負債合計	20,402	17,114
純資産の部		
株主資本	72,995	65,080
資本金	6,766	6,766
資本剰余金	10,122	10,123
利益剰余金	57,070	49,158
自己株式	△962	△967
評価・換算差額等	△1,023	△222
その他有価証券評価差額金	△1,230	△1,022
為替換算調整勘定	206	799
新株予約権	142	89
少数株主持分	2,045	2,239
純資産合計	74,160	67,187
負債純資産合計	94,563	84,301

● 連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	当中間期 (2008年3月1日から 2008年8月31日まで)	前中間期 (2007年3月1日から 2007年8月31日まで)
売上高	83,252	81,139
売上原価	44,825	44,476
売上総利益	38,426	36,662
営業収入	418	376
営業総利益	38,844	37,039
販売費及び一般管理費	29,661	28,092
営業利益	9,183	8,947
営業外収益	466	201
営業外費用	31	81
経常利益	9,617	9,066
特別利益	4	336
特別損失	247	220
税金等調整前中間純利益	9,374	9,182
法人税、住民税及び事業税	4,032	3,714
法人税等調整額	△13	△4
少数株主損益	△93	△60
中間純利益	5,448	5,533

● 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	当中間期 (2008年3月1日から 2008年8月31日まで)	前中間期 (2007年3月1日から 2007年8月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,861	7,931
投資活動によるキャッシュ・フロー	△8,578	△5,246
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,376	306
現金及び現金同等物に係る換算差額	△87	121
現金及び現金同等物の増加額または減少額(△)	△4,181	3,112
現金及び現金同等物の期首残高	26,748	23,414
現金及び現金同等物の中間期末残高	22,567	26,527

注) 連結財務諸表の記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

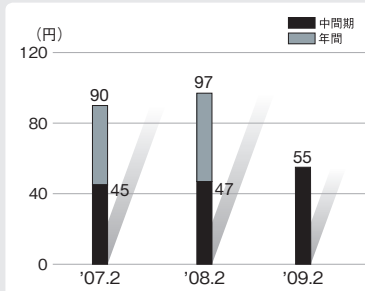
配当について

当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の最重要課題の一つとして位置づけており、1株当たり利益を向上させることが、責務であると認識しております。

利益配当金につきましては、安定成長を続けております単体の業績に基づいた配当とし、配当性向につきましては30%（年間）を目標に段階的に見直してまいります。

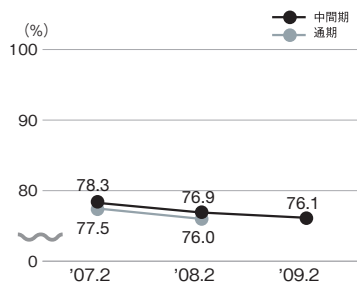
この方針のもと、中間配当金は55円と前中間に比べ8円の増配とさせていただきます。

● 1株当たり配当金

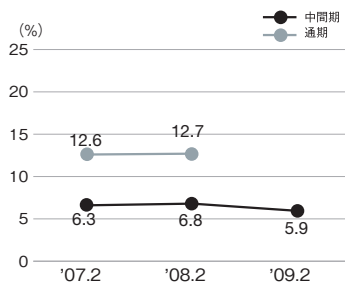


主要経営指標

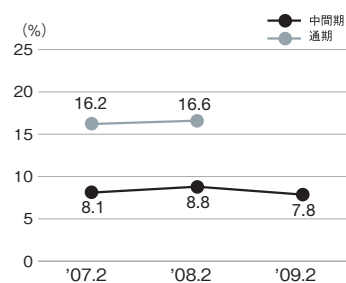
自己資本比率



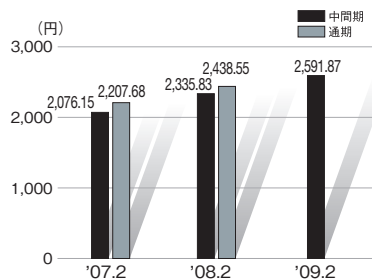
総資産中間(当期)純利益率(ROA)



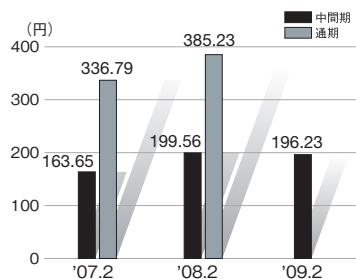
自己資本中間(当期)純利益率(ROE)



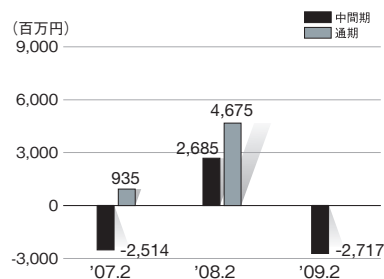
1株当たり純資産



1株当たり中間(当期)純利益



フリーキャッシュ・フロー



単体財務諸表

● 単体貸借対照表

(単位：百万円)

科目	当中間期 (2008年8月31日現在)	前中間期 (2007年8月31日現在)
資産の部		
流動資産	40,521	39,390
固定資産	46,966	37,889
資産合計	87,488	77,279
負債の部		
流動負債	16,708	13,865
固定負債	286	335
負債合計	16,994	14,201
純資産の部		
株主資本	71,580	64,011
資本金	6,766	6,766
資本剰余金	10,122	10,123
利益剰余金	55,655	48,089
自己株式	△962	△967
評価・換算差額等	△1,230	△1,022
新株予約権	142	89
純資産合計	70,493	63,078
負債純資産合計	87,488	77,279

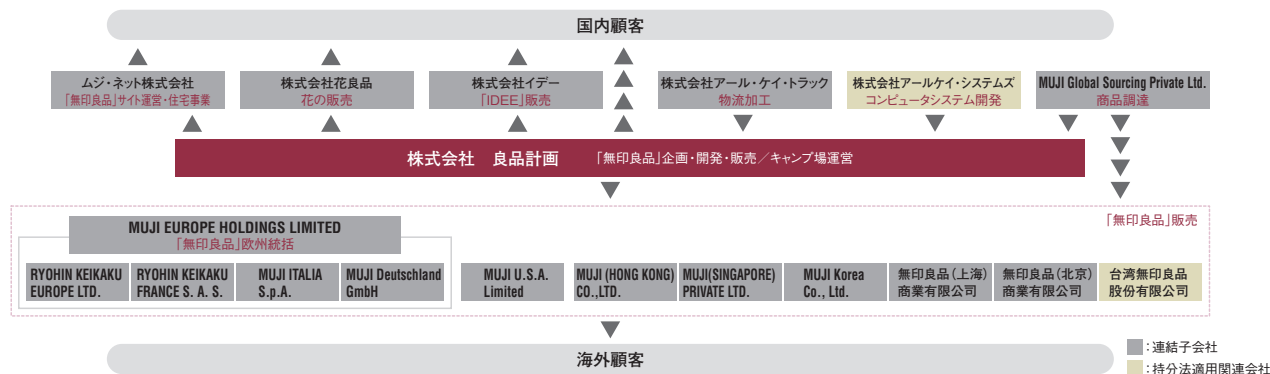
● 単体損益計算書

(単位：百万円)

科目	当中間期 (2008年3月1日から 2008年8月31日まで)	前中間期 (2007年3月1日から 2007年8月31日まで)
売上高	72,744	71,211
売上原価	40,292	40,158
売上総利益	32,452	31,053
営業収入	638	570
営業総利益	33,090	31,624
販売費及び一般管理費	24,086	22,809
営業利益	9,004	8,815
営業外収益	522	169
営業外費用	22	35
経常利益	9,503	8,949
特別利益	1	256
特別損失	292	388
税引前中間純利益	9,213	8,817
法人税、住民税及び事業税	3,850	3,585
法人税等調整額	△77	14
中間純利益	5,439	5,217

注) 単体財務諸表の記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

● 良品計画グループ



会社概要

(2008年8月31日現在)

会社名	株式会社良品計画 RYOHIN KEIKAKU CO.,LTD.
所在地	〒170-8424 東京都豊島区東池袋四丁目26番3号
電話	03-3989-4403(総務人事・J-SOX担当)
設立	1989年6月(登記上1979年5月) ※額面変更のため合併を行っております。
資本金	67億6,625万円
決算日	2月末日
年商	1,428億円(2008年2月期営業収益)
従業員数	1,149名(パートタイム社員3,224名)
国内店舗数	直営店189店舗、商品供給店148店舗
海外店舗数	イギリス14店舗／フランス7店舗／イタリア4店舗／ドイツ3店舗／アイルランド1店舗／スウェーデン6店舗／ノルウェー6店舗／スペイン3店舗／U.S.A.2店舗／香港7店舗／シンガポール3店舗／韓国7店舗／中国3店舗／台湾12店舗／タイ4店舗 合計82店舗 ※その他、ニューヨーク近代美術館(MoMA)デザインストアへの商品供給
主な事業	「無印良品」を中心とした専門店事業の運営／商品企画／開発／製造／卸し及び販売

役員

(2008年8月31日現在)

代表取締役会長 (兼)執行役員	松井忠三	監査役	児島政明
代表取締役社長 (兼)執行役員	金井政明	監査役	平林誠一
専務取締役 (兼)執行役員	古田正信	監査役	服部 勝
常務取締役 (兼)執行役員	浅田直照	常務執行役員	徳江純一
取締役 (兼)執行役員	加藤隆志	執行役員	大木宏人
取締役 (兼)執行役員	須田敏保	執行役員	鈴木 啓
社外取締役	藤原秀次郎	執行役員	小森 孝
社外取締役	植松富司	執行役員	田丸真治
社外取締役	尾原蓉子	執行役員	松崎 暁
常勤監査役	松井 仁	執行役員	亀谷哲夫

会計監査人

(2008年8月31日現在)

あずさ監査法人
東京都新宿区津久戸町1番2号 あずさセンタービル

株式の状況

(2008年8月31日現在)

● 発行可能株式総数	112,312,000株
● 発行済株式の総数	28,078,000株
● 株主数	14,857名

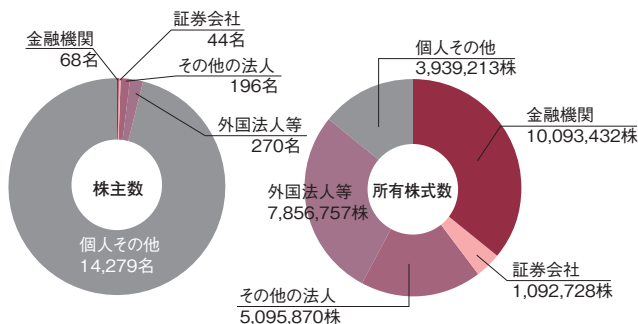
大株主

(2008年8月31日現在)

株主名	持株数(株)	出資比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	3,253,500	11.59
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	2,977,600	10.60
三菱商事(株)	1,078,300	3.84
(株)イー・ディー・エス	956,600	3.41
野村證券(株)	861,222	3.07
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口4G)	724,100	2.58
(株)ファミリーマート	706,400	2.52
(株)クレディセゾン	631,800	2.25
ザチエースマンハッタンバンクエヌエイ ロンドンエスエルオムニバスアカウント	573,208	2.04
資産管理サービス信託銀行(株)(年金特金口)	415,500	1.48

株主分布状況

(2008年8月31日現在)



注)個人その他には、自己株式1名309,513株を含んでおります。

株主メモ

事業年度	毎年3月1日から翌年2月末日まで
定時株主総会	毎年5月開催
基準日	定時株主総会 毎年2月末日 期末配当金 毎年2月末日 中間配当金 毎年8月31日 そのほか必要があるときは、 あらかじめ公告して定めた日
株主名簿管理人	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都中央区八重洲二丁目3番1号 住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先)	〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	(住所変更等用紙のご請求) ☎0120-175-417 (その他のご照会) ☎0120-176-417
(インターネットホームページURL)	http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/ retail/service/daiko/index.html
同取次所	住友信託銀行株式会社 本店および全国各支店
公告方法	当社のホームページに掲載する。 http://ryohin-keikaku.jp/ ※やむを得ない事由により、電子公告による公告を することができない場合は、日本経済新聞に掲載 する方法により行います。
上場証券取引所	東京証券取引所
証券コード	7453
単元株式数	100株

【株券電子化後の株式に関するお届出先およびご照会先について】

平成21年1月5日(予定)に株券電子化となります。その後のご住所変更等のお届出およびご照会は、株主様の口座のある証券会社宛にお願いいたします。

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていない株主様には、株主名簿管理人である上記の住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます)を開設いたします。特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。

株式会社 良品計画

〒170-8424 東京都豊島区東池袋4-26-3
Tel.03-3989-4403(総務人事・J-SOX担当)